

業務の実施方針

特に重視する設計上(意匠・構造・設備の各分野)の配慮事項

(コラボレーション・プレイス)

秩父の賑わいを牽引し、共に創る活動拠点『コラ・ショ』

豊かな風土に生まれ、古来から人・モノの交流があり、賑わいの歴史のある秩父。秩父の心の中心ともいえる「まつり広場」(秩父公園)に隣接した場所に施設を計画するにあたり、私たちは、秩父らしさの魅力をもつ「庁舎」と「ホール」、そして「歴史文化伝承館」の複合施設として、地域に開かれ、観光の中心として賑わいを牽引し、市民の活動の拠点となるコラボレーション・プレイス『コラ・ショ』を提案します。『コラショ』とは、秩父音頭の掛け声でもあり、「さあさあ、やるべえやるべえ」という思いも込めています。将来にわたり秩父の賑わいを生み出すために、市民と行政が共にまちを創る活動拠点として秩父全体の活性化に寄与する施設となるよう配慮します。

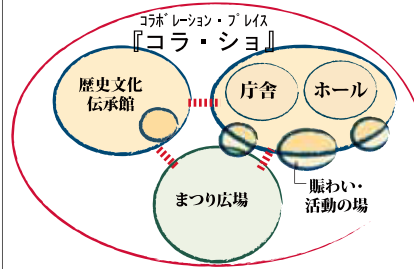
配慮ポイント-1

3つの『秩父らしさ』に配慮します

- 固有の「風土」** 「秩父紀行」にも記された森林や川などの美しい自然環境との調和、武甲山など地域景観を取り込みます。
- 往還の「回遊」** 古来から続く札所巡りなどの人々・モノの交流を生む、魅力ある回遊性を活かした動線計画とします。
- 伝統の「文化」** 秩父夜祭に代表される、秩父にしかない文化の発展・継承に寄与できる情報発信拠点とします。

配慮ポイント-2

まつり広場を中心に地域に開かれた賑わいの場・市民活動の拠点をつくりま



配慮ポイント-3

拠点のネットワークにより秩父全体の活性化を図ります

将来、各地域の既存支所が「コラ・ショ」をモデルとして市民活動の場となることで、秩父全体の活性化に繋がります。



●『コラ・ショ』のネットワーク

業務への取組体制

「共に創る」臨機応変・柔軟に対応します

常に市民の皆様や行政の皆様と「共に創る」視点を持ちながら業務を進めます。設計段階で出された様々なご意見、ご要望について多角的な検討を行い、柔軟に対応します。

■専属スタッフによる綿密な対応

施設の各部門(庁舎、ホール)各々に対して設計経験豊かなスタッフや、市民ワークショップの経験者を専属で配置します。経験豊かなスタッフによる利用者団体等ヒアリングや市民参加の会議への対応、執務環境調査を通して、ユーザーの意見を確実に反映します。

■設計窓口の一元化

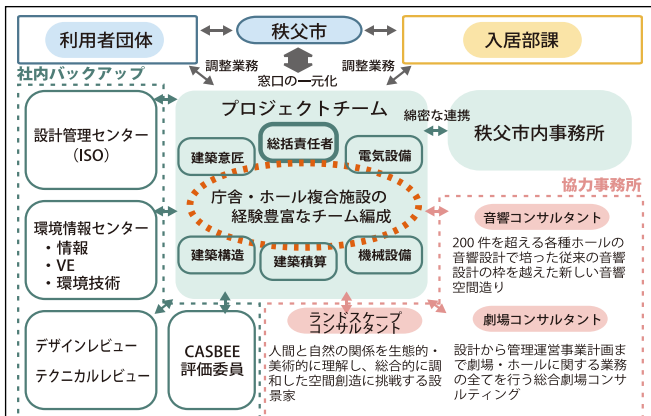
業務遂行に際しては、あらゆる要望に対して設計窓口を一元化し、情報のスムーズな伝達を可能にします。設計の各担当への連絡が迅速に行き渡るチーム編成とし、様々な要望に対して臨機応変に対応します。

■秩父市内設計事務所との積極的な連携

市内設計事務所とのJV結成に際しては、秩父のまちづくり・風土に精通した事務所のノウハウを活かし、積極的な連携を図ります。

■設計チームを支える社内バックアップ体制

設計管理センター、環境情報センター等による全社的なサポート体制を構築し、最先端の技術情報を基に設計チームを支援します。



●設計体制

設計チームの特徴

知識・経験・想いを有する設計チーム

■最新の同種施設の設計経験のあるチーム

最新の庁舎・ホール設計経験のあるスタッフにより構成し、新しい知識を施設設計に活かします。

■秩父への想いが深いチーム

埼玉県内での設計経験のある人材を配置するとともに、全ての担当者が秩父に頻りに足を運び、地域特性を十分に理解した上で設計を行います。

■専門アドバイザーの協力

音響設計、舞台機構設計については専門アドバイザーの協力を仰ぎ、専門性の高い幅広いニーズに対応します。

■一貫した設計体制

基本設計からアフターケアまで同一メンバーによる一貫した体制とするとともに、バランスのとれた年齢構成のチームにより、将来にわたり確実な設計意図の伝達を行います。

その他の業務実施上の配慮事項等

円滑で確実な業務遂行

■先行検討型による工程管理の徹底

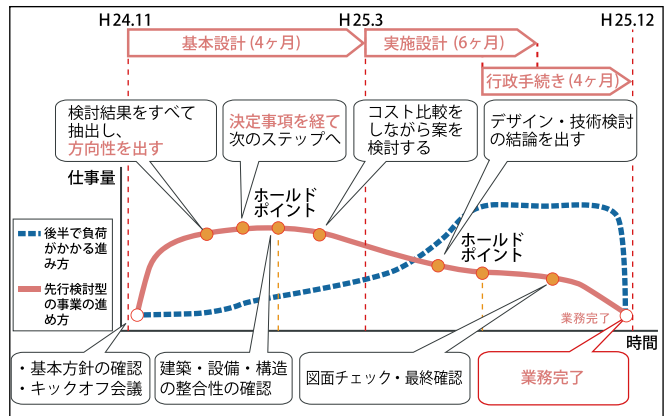
模型やBIM等を活用し、検討課題が常に可視化された設計を可能にします。基本設計、実施設計の各段階にホールドポイントを設け、円滑に設計が進むよう管理します。

■後戻りのないコストコントロール

同種施設の実績に基づいた、設計の後戻りのない精度の高いコストコントロールを行います。

■災害の安全性への対応

災害時のホール天井落下対策など、将来の法改正にも迅速に対応し、安全な設計を心がけます。



●先行検討型設計プロセス